



●写真とソフトで迫る色風景の秘密

港千尋・三木学編著『フランスの色景—写真と色彩を巡る旅』（青幻舎、2014年）

本書では、写真家・著述家の港千尋（多摩美術大学教授）がフランス全土で撮影した40枚の写真と、三木学（編集者・色彩分析）が自身の企画・開発した色彩分析ソフトを使って、フランスの風景に潜む配色の法則を明らかにしている。色景とは色風景の意であり、景色に含まれる色を表す。

ソフトはマンセル表色系の色空間に、写真に含まれる色をプロットしたり、色名を抽出できる。マンセル表色系を使うことで、色相やトーンなど、色彩調和論に照らし合わせた評価ができる。色名は日本のJIS慣用色名（和色名）、フランスの伝統色名、JIS系統色名の割合を抽出しており、母語によって感じる色の違いの一端を視覚化している。

港の撮影したフランスの写真の色分布を分析すると、補色や類似トーンなど、驚くほどシュヴルール以降の色彩調和論に適合する。

日本の風景ではそのような分布はありえないだろう。その違いの理由を、気候や風土、文化から推測していく。風景が色彩感覚を養い、色彩感覚が風景を創って文化になっていく相互作用を示した意欲的な試み。（三木学）

●貴石の色・ムーンストーン

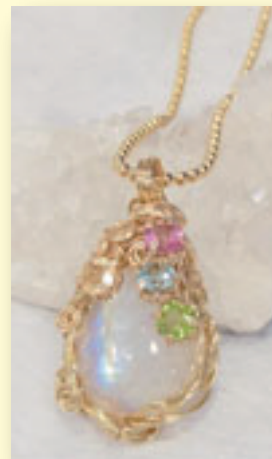
6月の誕生石のして人気です。長石の一種で、和名を月長石と言います。ムーンストーンの語源は月の光の満ち欠けによって表情を変える事から命名されたと言われています。

月の力が宿る石とも言われ、暗い夜道を照らし明るい未来に導く幸運の石です。月の力の満ち欠けに関係し、女性性、出産、健康、引寄せなどの願望に通じます。

海外では、恋人同士にこのムーンストーンを贈りあう風習から愛と幸運の石とも言われています。

ムーンストーンの色味は、オレンジ、グレー、グリーン、ブルー、レインボーなどバリエーションが豊富で、透明で、ブルーの光のシラーが出るものが高品質で人気です。

一つの石の中から、ブルーが光り輝きその周りに微かに反対色の黄色や黄緑が見えて、なんとも言えない輝きが私たちの目に焼きつき、自然石の配色の美しさを表現してロマンティックな石と言えらると思います。（田森恭子）



●色彩データ・ライブラリ解説—9

11-色彩文化には、16点のパワーポイントが収録されています。

日本の歴史を縄文・弥生・古墳・飛鳥・白鳳・奈良・平安時代の色材と色名を中心に、仏像の色や、寺院建築の色。位色の変遷、襲の色目、色名と対応する色票などを判りやすく解説したものが、「11-1-色名と色材の講座の前編」です。「11-2-色名と色材の講座の後編」は、鎌倉・室町・安土・桃山の鎧や衣装や絵画、建築の色、江戸の四十八茶百鼠の分類。明治・大正・昭和・平成の色材の発達などをビジュアルに示す教材です。

「11-3-色名と色材から見た歴史-足立区の講座」は上記の2編を講演用にまとめたパワーポイントです。「11-10-にほんの学校・平安時代」は更に短くまとめました。

「11-4-1-1-源氏物語にみる平安時代の色彩」は「11-5-1-2-平安時代歴史年表」と組み合わせ使ってください。

「11-7-平安・合わせの色目」、「11-8-平安・襲の色目」、「11-9-平安・織りの色目」は単純な教材です。個別に使ってください。

「11-14」は絵画からの色彩抽出例であり、「11-6」、「11-15」、「11-16」は、遊びで作りました。（永田泰弘） 申込先：学会事務局